

国語 八十一	第三学年及び第四学年の内容 改行	名前	年	組	番
-----------	---------------------	----	---	---	---

次の文章を読んで、行を変えたほうがよいところを一か所見つけ、その部分に改行の印「┌┐」を書き込みましょう。

ひとみきぬえ たいしやう  
人見絹枝は、大正十四（一九二五）年 にかいどうたいそうじゆく に二階堂体操塾（今の日本女子

体育大学）を十八さいで卒業 そつぎやう したあとも、新聞記者 しや として働きながら、

陸上競ぎ りくじやうきぎやう の練習 れんしゆう にはげんでいました。そして、さまざま ろく な競ぎ会に出

場し、すばらしい記録 ろく を残していきました。しかし、仕事をしながらの

練習は楽なものではありませんでした。仕事の合間に、二時間ほど練習

して、また仕事にもどります。ときには、夜中の一時まで仕事に取り組

むこともあり、つかれがたまつて、練習が思うように進まないこともあ

りました。

国語 八―二	第三学年及び第四学年の内容 改行	名前	年	組	番
-----------	---------------------	----	---	---	---

取り組んだ日  
月 日

次の①、②の文章を読んで、行を変えたほうがよいところをそれぞれ一か所ずつ見つけ、その部分に改行の印「        」を書き込みましよう。

① とみたらう 富太郎は、家のうらにある山へ行き、草や木をかんさつ観察することが大好きすでした。富太郎にとって、草木はまるで兄弟のようなものでした。草木をながめていると、とてもしあわ幸せで楽しい気持ちになるのです。ある日のことです。いつものように、富太郎はうら山で草木の観察をしています。

② また、別の日のことです。富太郎は、わくわくしながら、山へ行って草木をながめていました。すると、今度は不思議ふしぎなきのこに出合いました。

東京都道徳教育教材集小学校三・四年生版「心しなやかに」の

「植物の不思議にひかれて ― 牧野 富太郎―」より

※ 一部省略

国語 八—三	第三学年及び第四学年の内容 改行	名前	年	組	番
-----------	---------------------	----	---	---	---

次の①、②の文章を読んで、行を変えたほうがよいところをそれぞれ一か所ずつ見つけ、その部分に改行の印「」」を書き込みましよう。

① そして、富太郎は家に帰ると、山で見つけた不思議なきのこふしぎについて、話しました。

「あらまあ、それはキツネノヘダマですね。」お手伝いさんが言いました。

② 大人おとなになって、さらに植物のことが知りたくなった富太郎は、大学の研究室けんきゅうしつに入りました。大学で植物についての研究を続けた富太郎は、

千五百種しゆいじょう以上の植物に名前をつけました。その成果せいこは世界の植物研究家たちからもみとめられ、「日本の植物学の父」とよばれるまでになりました。年をとってから富太郎は、全国の小さな子どもから大人にまで、自然のすばらしさを伝えるために、こうえん会で話したり、植物さい集の会を開いたりしました。

国語 八―四	第三学年及び第四学年の内容 改行	名前	年	組	番
-----------	---------------------	----	---	---	---

とく  
取り組んだ日  
月 日

次の文章を読んで、行を変えたほうがよいところを二か所見つけ、その部分に改行の印「┌」を書き込みましょう。

よく日、いよいよ女子八百メートル走の決勝です。この競ぎは九人の選手が四百メートルのトラックを二周走って競います。絹枝はスタートから必死に走りました。しかし、一周目が終わるころには六位にまで落ちてしまいました。これではいけないと、苦しいながらもスピードを出し、あと二百メートルというところで、二位と三位の選手に追いつきました。絹枝は、自分がいつゴールに入ったのかわかりませんでした。体力を使い切って、自分の力で立ち上がることもできません。

国語 八―五	第三学年及び第四学年の内容 改行	名前	年	組	番
-----------	---------------------	----	---	---	---

取り組んだ日  
月 日

次の文章を読んで、行を変えたほうがよいところを二か所見つけ、その部分に改行の印「┌」を書き込みましょう。

英夫ひでおの家の近所には、小さな町工場が並んでいました。英夫は、しょく人さんの作業わざを見るのが好きで、学校から帰るとよく町工場に行きました。また、英夫はベーゴマ遊びあそびが大好きすでした。負けてしまおうと相手あいてにベーゴマを取られてしまうので、なんとしても強いベーゴマを作ろうと必死ひっしでした。ある日、英夫は、ベーゴマを強くするために、しょく人ひとから材料ざいりょうを分けてもらい、重くおもしようとして手を加くわえました。